

# 笑顔を導き出す魔法使い

舞台創りを通して縁がつながり、みのゝれと出逢った。「やろう」としている文化づくりの考え方に興味を持った」と語る畠井さん。



ここで逢えたら…総合演出・音楽監督

## 畠井 伸子 さん

みのゝれと共に生活するスタイル  
**Minole Life**  
のすすめ  
No.18

## 信頼集める 人柄と手腕

昨夏の公演が反響を呼び、続編が来年二月に公演される舞台「ここで逢えたら…」。  
この舞台の総合演出と音楽監督を務めるのは、ヤマハミュージカルやリリー保育専門学校ミュージカルコース及び卒業発表会の講師として活躍する畠井伸子さん。自身もピアノ演奏と役者として出演する。

水戸市出身。三歳でピアノを始める。小学生のときは「ピアノの練習が嫌いでサボっていた」そうだが、足が速いことを見込まれて水戸市内マラソン大会で水戸市一位に輝く。中学校ではバスケットボールに打ち込むなど、「実は私、根は体育会系なんです」と語る畠井さん。

進路を決める際に「やりたい事が特に見つからなかったのだから」と軽く気持ちで水戸三高音楽科を受験した。バツハにモーツァルト、ベートーベンの毎日に「自分のやりたい事とは何かが違う」と感じていたそう、文化祭では同級生がクラシック演奏を披露する中、畠井さんはユーミンの弾き語りをするなど、「かなり浮いていました」。

その後、「音楽高校お決まりの音大への進学」という理由で、創立一〇三年を迎える伝統ある上野学園音楽科へ進み音楽を専攻した。大学卒業後は水戸に戻り、ピアノ・エレクトーン講師や、ブライダル・ブレイヤーとなった。数年後、ヤマハがミュージカル科を創設することになり、全国から集まるヤマハミュージカル講師陣第一期生の一〇名のうちの一人に選ばれた。

一方、リリー保育専門学校ではリトミックや卒業発表会でのミュージカル指導を担当した。後に、その指導成果からリリーではミュージカルコースを開設することになった程だ。「卒業発表会は、学生一人一人と真剣に向き合い、それぞれの良さを舞台上で輝かせてあげる事が私の役目。バラバラだった学生が、稽古を重ねる事で変わっていき、ひとまわり大きくなった姿を客席で見させてもらえる時ほど嬉しい事はない」と畠井さんは語る。

みのゝれとMyuが共同制作する舞台「ここで逢えたら…」は、「スナックあけみ」というアンティークな店に集まる珍客と従業員が織り成す恋のショート・ショートのお芝居と、生バンドに乗せて役者たちが歌うライブの二本立ての舞台。「総合演出・音楽監督」なんて大層な役どころを頂いています、ここで逢えたら…」の舞台創りは、メンバーそれぞれがとびきの食材を持ち寄って、グラス片手に皆でキッチンに立ち、料理をしている様なもの。私は火加減を調整するくらいの役なんです」と謙遜する。確かに「ここで逢えたら…」に出演する役者は演出を務められる人たちが揃っている。「だからこそ、信頼を集める畠井さんの手腕と人柄で皆をまとめ、互いの力が乗算されているんですよ」と、役者たちは口を揃えて言う。

四月にはMyuの子どもたちから大人まで全員参加の新作「ウェディング・ロード」を公演する予定になっており、畠井さんはその作曲・歌唱指導も務める。「Myuのみんなと向き合う時間は、元氣と楽しさが体いっぱいに行き渡って、心が笑っていられるんです。私の人生、まだまだトキメキを持って過ごせるのは、Myuの活動に参加出来るているお陰なんです」。

舞台稽古で皆を笑顔にする『畠井マジック』。常に明るい雰囲気と笑顔を大切にしている畠井イズムが、舞台創りを通してみのゝれとMyuにしっかりと浸透しているように感じた。